

栃木県中学校長会報

会長あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立陽北中学校
校長 福 富 徳 治

今日、世界はソ連の崩壊など歴史的な変革により急激に変化し、これを受けてわが国も、将来を

どう見通すかが求められています。

この時期に21世紀を展望し、豊かな文化の創造と民主的な国家社会の一層の発展のため、進んで国際社会に貢献できる日本人を育成することが重要な課題であります。この課題に応えるための教育の果たす役割は大きく、私ども中学校長の責務もきわめて重大であります。本会といたしましても、これらの課題解決のため、いくつかの提案をし、今後の各地区校長会で検討されるようお願いいたします。また各地区校長会の連携を深め、本県教育の推進を期待するものであります。

第一は、中学校教育は、義務教育の最終の教育の分野と中等教育前期の分野があり、複雑な存在で、多面的な対応が強いられています。その中で教育課程移行の最終年度を迎え、一つ一つを明確にしなければなりません。特に選択教科履修幅の拡大については、各学校の特色づくりに創意と工夫をし、より充実した教育課程の編成を期待いたします。

第二は、個性を生かす教育の充実であります。生徒に基礎基本の充実を図り、生徒の特性を考慮し、個性をいかに伸ばすかということは、今回の教育課程の重要な要素でもあります。その推進に当り選択教科履修幅の拡大や習熟度別学習などを考慮し推進することが大切であります。そのためにも教員の定数増が必要と考えます。または高等学校の学科再編成、入試改善などにも反映されるものと思います。

第三は、学校週5日制に関することでもあります。

基本的には、「生徒を家庭に戻す」ことであります。県中学校長会としては、新しい学力観の上に生涯学習の基盤を培う意味から次の3点について検討したいと考えています。

- (1) 教育課程の編成に関して、どのような配慮をし、どう工夫するか。
- (2) 生徒の休業日における実態把握(予測)と予想される活動をいかに充実させるか。
- (3) 地域や保護者との話し合いや行政機関への働きかけをどうするか、などであります。

学校週5日制については、その他、多くの課題の解決が迫られています。要は、家庭や地域の教育力を回復させ、教育全体としての機能が発揮されるよう尽力したいと考えています。

第四は、生徒指導に関する問題であります。暴力、いじめ、窃盗と不登校生徒の問題がありますが、個々の生徒に明るく、希望と夢を持たせ、特に家庭の教育力を回復させる努力を重ねることが大切であると考えます。

第五は、進路指導に関する問題であります。生徒に主体的に判断させ、能力適性などを考慮し、生徒自ら決定できる能力を育てることが肝要です。新しい学力観により評価し、入試等に十分反映されることを期待します。私立高に対しても入試期日を遅延することや、内申書の簡素化などを要望したいと考えています。

これらの課題解決のため、県中学校長の総力を結集し、機能が十分働くよう努力したいと考えます。そのために、本会の組織を持って、互いに連携しあい、積極的な活動の推進をお願いいたします。

また、第44回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会でも解決の道が開かれる事と念じております。大会の成功を期待したいと思います。

最後になりましたが、県教育委員会、市町村教育委員会、関係機関、関係団体の方々の温かい御指導と御援助をお願いいたします。県中学校教育の一層の充実に全力を注ぎ、県民の信託に応える努力をすることを誓い、あいさつとします。

(総会での会長あいさつより)

教え方・教えられ方



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立若松原中学校
校長 鈴村 元

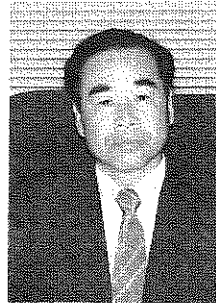
今年もプロ野球はいろいろな話題が出た。何といても、コーチと選手が高い理想と目標に向かって練習

と試合に取り組む時、教える方も教えられる方も、お互いを信頼し合うとともに、「今、何をするか」を絶えず確認しながら進むことが大切と考える。

マス＝コミで騒がれ、5年目を迎えるヤクルトスワローズの長嶋選手がいる。偉大なる父、長嶋茂雄氏の影が大きく、何かにつけて比較される彼は、入団以来毎年「いつレギュラーポジションを獲得するのか」と言われ続けている。現在はアメリカで日々頑張っているとよく報じられているが、今までに何人の人からアドバイスを受けたのだろうか。落合選手、関根監督、若松選手等。このように考えた時、ヤクルトにドラフトで指名された時の茂雄氏の一言が忘れられない。「基礎工事がまだできていないから二年位しっかりと基礎づくりが必要だな……」。大きな高いビルにはその分だけしっかりした基礎工事が必要なように、人が成功するためには、しっかりした基礎がなければならない。彼の場合を考えると、「ゲームに出る」という目先のことのみでこれまでの時間を使いすぎたのではないだろうか。ゆえに、何人ものアドバイスが彼の中では消化できていないように思う。まず自分自身の基礎を作った時にはじめて、周りのアドバイスが見えてきて消化できるものと思う。

最近の生徒達を見ていると、これと同じようなことが多く感じられる。教える方も教えられる方も、もう一度自分自身の目標や理想を確認し、「今何をしたいのか」「今何をしなければならないのか」を再構築する時代を迎えていると思われる。

教育改革の原動力



栃木県中学校長会副会長
藤原町立藤原中学校
校長 稲葉 允

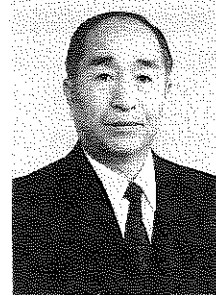
いま、新しい教育課程の全面実施を目前にして、どの学校でも改訂の趣旨を受け、教育の質的転換を図

って努力をしているところである。また、学校週5日制もその第一歩を踏み出して、学校教育は、教育課程の視点からだけにとどまらず、その全体が根本的に見直されようとしている。

ところで、前回の教育課程改訂では、基礎・基本の重視や児童・生徒の個性や能力に応じた教育の重視、とりわけ、人間性豊かな児童・生徒の育成と、ゆとりのあるしかも充実した学校生活の実現が重要な改訂の方針として示された。この十年間、「ゆとりと充実」の言葉が盛んに使われ、豊かな人間性育成のためのいろいろな取り組みがなされてきた。しかし、言うほどに、豊かな人間性を育てることができ、ゆとりのあるしかも充実した学校生活を送らせることができたであろうか。

教育改革の原動力は、指導要領にあるのではなく教える人にある。教育を単なる知識の伝達や指導技術の問題で終らせることなく、生徒を根底から動かすには教師の全人格による感化や薫陶という作用を強めなければならない。それでなければ、教育改革も言葉だけの先行になりかねない。大切なのは、教育者としての使命感と情熱であり、生徒への愛情である。さらに、豊かな教養と専門的知識、そして、深い生徒理解と実践的指導力が求められる。これらを、日々の教育実践の中で教師一人ひとりが自らに求め、また、求めさせる学校経営を推進することが、教育改革の原動力となるのであろう。「教育は人なり」というが、現在進められている教育改革も、つまるところは、教える人の資質の向上以外にはないのであろう。

退任にあたって



前栃木県中学校長会会長
前宇都宮市立
旭中学校長

清水 昭

校長先生方には、益々御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。私

こと、会長在任中は、大変お世話になり、おかげさまで職務が無事に遂行できましたこと心より感謝申し上げます。特に、第44回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会につきましては、全会員協力一致の態勢で準備と推進に御尽力を賜り、大成功で高い評価を受けられ、誠に感謝の極みであります。

さて、今年度は、学制120周年という記念すべき年であり、また、次年度からは新教育課程が全面実施される時期であります。さらに、変動の激

しい国際情勢の中で、中学校教育の真価が問われるのはこれからでありましょう。

校長先生方には、学校運営の責任者として、日頃から確固たる信念で職務を遂行されておられますこと深く敬意を表します。私は、常に、「21世紀を目指し、社会の変化の自ら対応できる、心豊かな人間の育成」を念頭にしておりましたが、なかでも、「自ら」という主体性の育成こそが今後の中学校教育の基盤であろうと考えております。そのためには、「自ら考え、決定・実行し、その結果に責任を負う」という自主自律的な生活を十分に体験させる必要があります。そして、それらの中で見られる一人一人の良さを、認めて、ほめて、励まし合うことによって個性と意欲が伸び、主体的に生きる力が湧いてくるものと考えます。これは、本県の「いきいき栃木っ子3あい運動」の趣旨とも合致するものと信じます。

どうか校長先生方には、校長会を中心により一層研鑽に励まれ、特色ある学校の創造と、教育県栃木の建設に御活躍くださるよう願いたします。

平成4年度各専門部 活動計画

調査部

部長 菊池 亮 蔵 (宇・瑞穂野中)

1. 役員選出と事業計画の作成

平成4年6月26日に県教育会館において部会を開催し、次のとおり決定した。

(1) 役員 副部長 福井 淳 (河・上三川中)

〃 竹田公彦 (塩・玉生中)

(2) 事業計画

① 全日中調査部との共同調査である「中学教育に関する調査」の実施

② 県中学校長会ならびに各専門部活動に必要な調査と資料の提供

③ 他県中学校長会、教育団体との連携と資料の交換

④ 調査結果や収集資料の配布

2. 「中学校教育に関する調査」について

この調査は、全日中校長会調査部との共同調査で、去る6月に実施した。調査に当たっては

県教育委員会の義務教育課と高校教育課にそれぞれ資料提供をお願いし御協力をいただきました。

また、項目によっては県下中学校の悉皆調査の必要があったため、全中学校長各位に、特に集計事務については、各地区の調査部の校長各位にお骨折りをおかけしました。厚く感謝申し上げます。

その調査の結果の一端を次の表で紹介いたします。

比較項目		平2. 5. 1	平3. 5. 1	平4. 5. 1
給料	初任給(大卒)	148,100円	167,300円	178,900円
	勤続10年	236,000円	244,400円	263,200円
	勤続20年(校長36年)	330,800円	349,200円	361,000円
旅費1人当たり(年間)		68,700円	78,400円	78,400円
校長退職年齢		60歳	60歳	60歳
生徒数		88,030人	85,589人	84,270人
教職員(校長、教頭、教諭、養護教諭等)		4,403人	4,619人	4,564人

☒ 研修部

部長 阿久津 壽之(宇・姿川中)

1. 第1回研修部会

平成4年6月26日(金) 教育会館

議題

(1) 平成4年度研修部組織

- ・研修部長 阿久津壽之(宇・姿川中)
- ・同副部長 長嶋 晟一(矢・片岡中)
- ・同副部長 中原 将夫(足・一中)

(2) 関プロ栃木大会の成果と本年度の研修活動

- ア 主題 心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育(継続)
- イ 副主題 新学習指導要領に則した教育課程の編成と実践による中学校教育の充実

(3) 平成4年度研修部活動計画

- ア 第14回栃木県中学校長会研究大会
 - ・期日 平成4年9月25日(金)
 - ・会場 栃木県子ども総合科学館
 - ・内容 講演会 演題(仮題)「新学習指導要領に則した教育課程の編成と実践」
- イ 研究集録第15集の発行
- ウ 全日中沖縄大会提案内容の検討

2. 第2回研修部会

平成4年7月21日(火) 教育会館

(1) 第14回栃木県中学校長会研究大会のもち方

- ア 演題の確認と講師について検討
- イ 大会運営の役割分担

(2) 研究集録第15集の編集について

- ア 内容の構成
 - ・県研究大会講演の記録
 - ・全日中沖縄大会提案内容
 - ・各地区の研究概要(平成4年度)

(3) 今後の研修部の活動について

- ア 各地区の活動計画と実践の情報交換
- イ 平成5年度以降の研修のあり方についての意見交換(継続して話し合う)

(4) 次回の研修部会

平成4年9月17日(木) 教育会館

☒ 編集部

部長 轟見 徹也(宇・星が丘中)

第1回の編集部会は、平成4年6月26日(金)

に教育会館で行われました。部会で話し合われた内容は、概要次のとおりです。

1. 平成4年度役員

- ・部長 轟見 徹也(宇・星が丘中)
- ・副部長 高久 邦夫(河・河内中)
- ・副部長 山中 芳夫(栃・吹上中)

2. 平成4年度会報発行の構想

- ア 年2回(第77号、第78号)発行する。
 - ・会報の内容はほぼ従来どおりとする。
 - ・関プロ校長会栃木大会については、半ページ程度の記事を掲載し、特集号は発行しない。詳細は「大会報告書」によることにする。

イ 発行予定日

第77号 平成4年10月1日

第78号 平成5年1月20日

ウ 第77号の内容

- ・12ページ
- ・役員所感(会長、副会長2名)
- ・専門部活動計画(8部)
- ・校長大会報告(大会事務局長)
- ・退任挨拶(前会長)
- ・新任校長の一言(栃木、小山、塩谷、南那須、安蘇各1名)
- ・地区だより(河内、芳賀、塩谷、南那須、安佐、足利)
- ・私の朝会訓話(1名)
- ・お知らせ(関プロ大会等)

3. 次回編集部会

ア 開催期日 平成4年11月28日(土)

イ 議題 第78号会報(10ページ)の内容検討 執筆者人選等

ウ 第78号会報のうち「地区だより」は、宇都宮、上都賀、栃木、小山、下都賀、那須の各地区となる予定。

4. その他の確認事項

編集部は、本年度も会報発行を活動の中心とし、可能な限り22ページ(2回分)を確保する。

☒ 職員対策部

部長 鈴木 宣次(宇・国本中)

平成4年6月26日(金)、県教育会館において、専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定しました。

1. 役員

- 部長 鈴木 宣次(宇・国本中)
- 副部長 巻 島 秀 世(栃・栃木東中)
- 〃 大 堀 貞 眞(塩・氏家中)

2. 事業計画

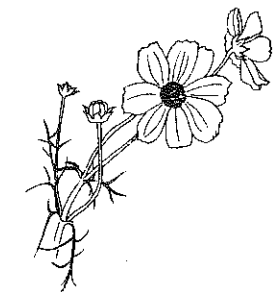
- 講話 「退職後の生活設計」
- 期日 平成4年12月1日(火)(予定)
- 場所 県教育会館
- 講師 県教委福利課長、各係長他

3. 研修内容

一 退職と退職後の課題一

- (1) 医療保険について
 - ・退職後の医療について
 - ・任意継続組合員制度
 - ・継続療養制度 等
- (2) 退職手当について
 - ・退職手当の種類
 - ・退職手当の計算
 - ・各種課税 等
- (3) 年金制度の概要について
 - ・年金の種類
 - ・退職共済年金の内容としくみ
 - ・退職共済年金の支給 等

※ 講話「退職後の生活設計」については、福利厚生部と共催の予定です。



☒ 進路対策部

部長 加藤 昌雄(宇・宮の原中)

平成4年6月26日(金)、進路対策部総会を行い、今年度の組織づくりや事業計画について協議した結果次のように決定した。

1. 役員

- 部長 加藤 昌雄(宇・宮の原中)
- 副部長 橋 本 巖(那・黒田原中)
- 副部長 片 柳 達(安・常盤中)

2. 事業計画

(1) 第1回研修会

- ア 期日 平成4年9月28日(月)
- イ 場所 県教育会館中会議室(1F)
- ウ 内容

- (ア) 平成4年度県立高校募集状況について
- (イ) 平成5年度県立高校募集定員について
- (ウ) 学科再編の考え方について
- (エ) 学区制について
- (オ) 出願方法、合格発表について
- (カ) その他

エ 出席者

- 県教委高校教育課整備計画担当主幹
- 県教委高校教育課長補佐兼指導係長
- 県教委義務教育課指導係進路指導担当者
- 栃中校長会進路対策部員

(2) 第2回研修会

- ア 期日 平成4年11月の予定
- イ 場所 教育会館
- ウ 内容

- (ア) 平成5年度募集定員について
- (イ) 生徒指導の現状と課題について
- (ウ) 平成5年度の入試について
- (エ) その他

エ 出席者

- 栃木県総務部文書学事課第1係長
- 私立中高連合会・会長・副会長(4名)
- 県教委義務教育課指導係進路指導担当者
- 栃中校長会進路対策部員

上記のとおり決定しました。お知らせします。

☒ 修学旅行部

部長 田村幸二(宇・横川中)
副部長 菅沼基訓(小・間々田中)
渡辺敏夫(宇・豊郷中)
監査 大塚宏(芳・真岡西中)

新指導要領の特別活動に示されている、旅行・
集団宿泊の行事では、生徒が日常の学習の成果を
生かし、平素と異なる生活環境にあって、人や自然・文化との様々なかかわりを通して自主的、実
践的に活動を行う、総合的かつ、体験的な学習活
動とあり、修学旅行は、創造性、社会性を伸ばし
豊かな人間性を育てる上で大きく役立つ行事であ
ることは言うまでもありません。

本部会は、これらの教育的機能を十分に果たす
ための調査研究などを進めております。

なお、この部会は、本県だけの独立した組織だ
けでなく、関東5県の校長会により組織発足し、
30年の歴史をもつ、関・修・委に加盟し、相互の
連携のもと、合理的かつ安全な輸送計画の立案、
学習効果の向上に寄与する活動、関係機関・団体
との交渉等を行っています。

特に本年度は、班別活動の形態をとる学校の増
加傾向の中で、修学旅行の評価を含め動向調査を
進めており、今後の修学旅行のあり方をさぐる研
究を行っています。

各位の関・修・委に対するご理解とご協力をお
願いいたします。

一平成4年度の活動一

- 6月 平4事業計画案・予算案審議等
7月 平6年度新幹線利用希望調査
8月 同集計、平4修学旅行実施報告の集計
9月 栃木・茨城調整会議
10月 中学校修学旅行の動向調査
12月 関・修・委研究発表大会(埼玉・浦和)
" 平6年度修学旅行輸送計画の確認、学習
資料の検討、その他

☒ 福利厚生部

部長 柴田正博(宇・宝木中)
平成4年6月28日(金)の部会において、本年
度の正・副部長並びに事業計画を次のとおり決定
しました。

1. 正・副部長
部長 柴田正博(宇・宝木中)
副部長 森嶋愛生(河・本郷中)
" 吉田忍(小・小山中)

2. 事業計画
(1) 第1回部会研修会 平成4. 6. 28(金)
於教育会館

ア 役員選出
イ 事業計画作成とその推進について

(2) 第2回部会研修会 平成4. 8. 29(土)
ア 「生徒手帳」編集会議

(3) 第3回部会研修会 平成4. 11. 7(土)
ア 「中学生の安全」編集会議

(4) 会員研修会 平成4. 12. 1(火)
ア 講話 「退職後の生活設計」
講師 県教委 福利課職員
※ 職員対策部と共催事業

(5) 第4回部会研修会 平成5. 1. 25(月)
ア 「新しい道」の検討
イ 本年度事業反省と次年度事業計画につい
て

上記の内容が、福利厚生部会の本年度の実施計
画ですが、12月に予定しております会員研修会は、
来春定年退職の方々を対象といたしますので、年
金、退職金、退職後の医療保険に関心のある方は
ご参加ください。特に本年度検討されてきている
退職互助制度についても説明がある予定です。

なお、この会の参加は予約制で、11月初旬ごろ
案内の通知を出しますので、内容をご覧のうえ、
希望者は参加申込をしてください。

第44回関東甲信越地区
中学校長研究協議会
栃木大会を終わって

大会事務局長 鈴村元(宇・若松原中)
第44回の本大会が平成4年6月11日(木)・12日(金)

に宇都宮市において、1都9県の中学校長代表者
1,114名参加のもと盛大に挙行された。会場は初
日総合文化センター、2日目教育会館であったが、
特に初日は緑に囲まれた新装の会場であり、施設
が立派で交通の便もよく、文教の香り漂う素敵な
雰囲気と他県の参会者から受けとめられた。

開会式は、ご多忙中にもかかわらず、文部省視
学官、全日中会長、県知事、県議会議長、県教育
長等の皆様からお祝辞をいただき、21世紀を担う
子育てのために熱意と期待を示された。

「心豊かでたくましい日本人を育成する中学校
教育」の全体協議題のもと、「学ぶ喜びを感じ、
いきいきと活動できる生徒を育てる学校づくりの
推進」の視点をもって、本県の阿久津校長が全体
協議の提案を行った。内容としては、各校が取り
組んでいる「3あい運動」の実践であり、関東地
区はもとより、全日中の役員にも感動を与えるす
ばらしい内容であった。

各分科会は「新教育課程」「心の教育」「学校
経営」の課題をもって9分科会で提案と協議を実
施したが、各分科会でA・Bの提案者中、Aは開
催県が担当するため、全分科会とも本県提案が網
羅されることになった。本県ではこのため、各地
区ごと分科会の任に当たり、前年度から研究と積
み重ねを実施してきたため、内容の深さと広がり
は、どの分科会にも胸を打つ手ごたえがあった。

更には、本県の郷土色を出した足利の「八木節」、
記念講演として日光東照宮高藤晴俊教学部長の
「東照宮再発見」は、内容のすばらしさに万雷の
拍手が鳴り響いた。

最後に、今大会のこれまでにない大成功を得た
のは、栃木県中学校長会員全体の結束と、日頃の
絶ゆまぬ研究成果のたまものと深く感銘した。

☒ 生徒指導部

部長 中里三男(宇・陽東中)
平成4年6月26日(金)県教育会館において専
門部研修会を開き、本年度の役員及び事業計画を
次の通り決定した。

1. 役員
部長 中里三男(宇・陽東中)
副部長 金森定敏(小・第三中)
" 真岡親男(塩・大宮中)

2. 事業計画の概要
(1) 第1回部会研修会

ア 期日 平成4年6月26日 県教育会館
イ 役員選出 上記の役員の通り
ウ 研究課題 「登校拒否等学校不適応生徒
への対応について」

エ 研究内容
① 生徒指導部としては、県中学校長会の
重点目標の中から「登校拒否等学校不適応生
徒への対応の推進」を取り上げて課題とする。

② 登校拒否の特徴を次の三段階に分けて
考える。

- 初歩的段階(「学校へ行きたくない」と
いう心境になる段階)
○ 少し進んだ段階(養護教諭等によって特
別な配慮を必要とする段階)
○ より進んだ段階(関係機関の専門員との
カウンセリング等で援助指導を受ける段階)

③ 「登校拒否は誰れにでも起り得る」と
いう考え方から、主として初歩的段階の要因
を生み出さない楽しい学校づくりをしていく
ために、各学校が取り組んでいる手立てや日
々の実践の様子を取り上げて情報交換をして
いく。

(2) 第2回部会研修会

ア 期日 平成4年8月6日 宇・陽東中
イ 内容 各地区での取り組みがよくわか
るよう簡潔明瞭な情報交換ができる様式を考え
る。8月中旬に各地区に配布し、12月に各地区
から提出してもらい、それらをまとめる。

新任校長の一言

我が家の誇りの実践を

栃木市立寺尾中学校長

蜂須賀 貞 雄

昔は学校は知的なものの伝授、親は社会への適応条件である躰を受け持つという役割分担があった。それぞれの家のしきたりや先祖から受けつがれた習わし等があり、家の構造や雰囲気を含めた人間形成の上に影響を及ぼすものを家風と呼んでいた。そこでの日常の生活信条が子への手本であったが、現在はすべて学校任せである。まして自分の人生観や職業観等を子供と共に話し合う機会を持っている親はどの位いるだろうか。社会の変化に伴う家庭での親子がふれあう時間の少なさもあろう。だからこそ親は子供に対する家庭での教育の在り方を考えねばならないし、親子の対話を通して子供の基本的な生活習慣の形成が図られなければならない。子供の健全な成長にとって、家庭が基盤となるには何か一つでも子供が「家」への誇りを持ち、親の生き方を見倣い成長していくことが大切である。親子で「我が家の誇り」を見つけ実践していく過程で、新しい家風も醸成されると思うが如何だろう。

“人を生かす”とは

小山市立豊田中学校長

五月女 弘

K町からバスで峠を2つ越え、人家のまばらな停留所の近くに、○小学校がポツンとあった。山の子供たちは素朴で明るかった。秋、理科と体育の時間、野外視察と称して、山へ出かけた。アケビが実り、ムササビが驚いて谷へ飛んだ。週案に「山道の歩き方」と書いて、T校長に「これは体育の授業ですか。」と優しく叱られたりした。30余年が経った。「星霜移り人は去り」往事茫茫夢の如しである。日本は世界のトップに立ったと人は言う。学校5日制が導入され、新学力観が叫ばれ、高校・大学の入試も大きく様変わりを見せ始めている。

「人を生かすことだよ。」心構えを尋ねた諸先輩から、異口同音に出た言葉である。

ある先輩からは「一々指図ばかりしていると言われたことしかやろうとしなくなる。それが一番怖い。」とも教えられた。

「ひとりひとりが主人公—自主・自律そして自治」先任者が残してくれた本校の3あい運動のスローガンである。温かく見守れる校長を貫こうと思う。

まず、職員室から

矢板市立泉中学校長

長谷川 巻 夫

緊張のうちにも、職員やPTAの方々の協力を支えられて、無事に一学期が過ぎた。

初めて校長という立場にたつて、先ず何をどうしたらよいのかとまどいと緊張の出発であった。

幸いにして、本校は、6学級、生徒227名、生徒も保護者も穏やかな人たちの多い農山村の落ち着いた小さな学校であった。職員室も職員15名ほどで、大変家族的な雰囲気であった。

まず、学校経営はこの職員室の経営からと思った。何でも気軽に話し合える雰囲気があり、たまには、ジョークがとび、軽やかな笑い声が聞こえるような職員室。そんな職員室であってこそ先生方の心身の健康も支えられるし、教師の健康が明るい教室経営につながる。また、気軽に話し合える雰囲気は生徒を多面的に理解するのに役立つ。

できるだけ校長室を出て、先生方の会話の中に入り、共に語り、共に行動し、ことにギャップを感じやすい若い先生方の気持が分かるように努めたいと思っている。

保護者との連携を密に

烏山町立境中学校長

高 田 博

本校は青年教師時代に、13年間に在職した学校で現在のPTA会員のほとんどが教え子、すべての面でやりやすい。生徒数は、その当時の4分1で130名の小規模校、生徒と親をよく知り家庭的な

地区だより

研修活動の概要

河内地区

河内郡中学校長会は会員8名で比較的組織が小さいため、他の校長会との合同研修を加え、(1)郡中学校長会単独の研修、(2)宇都宮市中学校長会との合同研修 (3)郡小学校長会との共同研修の3本立てで研修活動を進めてきている。

(1)の研修では、10月の全日中沖繩大会第4分科会「健全育成を目指す生徒指導」において、本会の森嶋愛生校長(本郷中)が関東甲信越地区を代表して研究提案をする予定であるので、その提案内容の充実を目指して研修を進めようとする。また、本年度は教育課程全面実施を目前にしているため、教育課程の編成と実践上の課題についても取り組んでいく予定になっている。

(2)の研修では、年4回の研修のうち、前半は主として関プロ栃木大会の全体協議提案内容にかかわる研修に、後半は、文化財巡りや学校経営上の課題等の研修が行われることになる。

(3)の研修は年6回程度の活動が予定され、児童生徒指導や郡内小・中校の学校参観と学校経営に関する研修、県外優良校視察研修、小・中の連携方策の充実を目指した研修等がその内容である。

研究活動の概要

芳賀地区

本地区校長会は18名の会員で構成され、本年度は7回の研修会を計画している。第1回と第2回は、関東甲信越中学校長栃木大会の研究協議題、「部活動によるクラブ活動代替上の課題」について最終の研修を行った。第3回以降は研究テーマを決め、提案者による提案説明の後研究討議を行う。5つの研究テーマは次の通りである。

- 校則の見直しと生徒指導
- 選択教科拡大の工夫
- 学校運営の活性化、特に各主任・若年教師の

雰囲気指導にあたることのできる。

保護者は、昔の境中学校を考え、部活動等にも強い要望を持っている。一人ひとりの生徒を伸ばすためにも、地域の期待と信頼に応えるためにも父母の立場に立って、話をよく聞き、親身になって指導にあたるのが基本であると考え、次のような点に努力する所存である。

・全教師の力を結集し、生徒一人ひとりの学力の定着を図り、地元高校への進学を一人でも多くしたい。

・現代人の失いかけている学校を愛し、郷土を愛する心を、学校集団の中で実践を通して育てたい。・きれいな学校、たのしい学校、すてきな学校、熱心な教師を合言葉に、全職員が一体となって、努力していきたい。

以上、私の所信の一端を述べてみました。

「自由」と「規律」

葛生町立常盤中学校長

片 柳 達

教育委員会月報(S.56.1)の高橋広島県教育長の随筆『許容社会に思う』を、ふと思い出した。先生がロンドンの道路を横断しようとした時、中年婦人に「そこはいけません。あちらの横断歩道をお渡りなさい。」と声をかけられた。優しい言葉の反面、不正を許さない厳しさを感じた。家庭でも学校でも社会でも、不正を許さない厳しいものが漂う時、人は自分を戒め、自ずと生活や社会の秩序が確立されてくる……と述べられている。

若き日をイギリスのパブリックスクールで学んだ故池田潔慶大教授の『自由と規律』は私の愛読書だが、そこには自由の精神が厳格な規律の中で育まれている様子が、生き生きと描写されている。

自由が先走り規律が失われがちな、権利が主張され義務が果たされない社会を垣間見る時、日本の民主主義は未だ地についていないと、心ならずも思う。親が子を社会が少年を教師が生徒を、21世紀にどう生かすか模索することは、昭和を生きてきた我々の、残り少ない最大の課題かと思う。

指導

- 望ましい進路指導と進学指導の改善

なお、各研修会ごとに学校経営上の諸問題について話し合っている。

そのほか、小学校長会と合同で次の研修を行う。

- 学校週5日制の問題
- 登校拒否児の理解と対応
- 特色ある学校経営の推進

先輩を囲んで

塩谷地区

塩谷地区は、矢板市・塩谷町・氏家町・高根沢町・喜連川町の1市4町の中学校10校で構成されている極めて小人数の校長会である。従って、役割分担にしても一人何役も負わなければならない現状にあるが、反面、家庭的な雰囲気があり、お互いに遠慮なしに話し合いができる長所もみられる。

今年度は、阿久津中学校の芳村校長を会長として順調に研修活動・調査活動・対策活動等の諸活動を展開しているが、その中に他地区にはあまり類を見ない研修会がある。

それは、三月に退職された校長先生方との「先輩を囲んで」の研修会である。この研修会は、例年鬼怒川温泉を会場として一泊二日で行なわれるが、その内容は、先輩方の現在の様子・心境・現職時代の反省・やり残したと思われること、現職校長への注文、等など多彩に渡り、質疑応答を入れながら歯に衣を着せないで話し合いが行なわれるので、大変有意義でしかも肩の凝らない楽しい研修である。夜の一献交わしながらの情報交換もまた然りである。

研修活動の概要

南那須地区

8名という極めて小人数の校長会だけに、久郷祐廣会長のもと、大島定寿研修部長を中心として「教職員の資質の向上を目指す研修の推進」をテ

ーマに、まとまりのよい精力的な研修活動を展開している。

まず6月11日の関東甲信越地区中学校長研究協議会第9分科会「教職員の研修活動」の運営並びに提案発表のために、次の様な研修を行った。

- 昨年度までの研修経過と研修内容の確認
- 本年度研修計画の策定
- 提案者の発表原稿の検討
発表に必要な資料及びTP等の検討と作成分担
- 分科会運営のための役割分担と内容確認
- 分科会運営スピーチと提案のリハーサル

また、この研究協議会終了後は「中学校教育の諸問題」を中心として、各校の現実の問題を提起しあい、教職員の研修と関連づけながら、よりよい方策を探る研修を進めている。

今年度の研修と事業

安佐地区

安佐地区中学校長会では、平成4年度の研修テーマを『心豊かでたくましい日本人を育成する中学校教育』とし、サブテーマとして、(1)自らの生き方を考え、主体的に進路を選択する能力を育てる指導の在り方、(2)学校経営上の諸問題の二つを決め、年間7回の研修をすることにした。

進路指導に関する研修は、昨年の中日中旭川大会での提案(小松原庄平赤見中校長)に引き続いて、今年度、本地区が関プロ中学校長研究協議会栃木大会・第4分科会【生きる力を育てる進路指導】の提案(山口仁田沼東中校長)を担当することになったからである。

また、学校経営上の諸問題では、①学校5日制の課題、②特別活動について、③教育課程の編成について、④不登校生徒への対応等を中心に各校の状況を話し合っている。

さらに、今年度は、安佐地区中学校長会が中心になり、佐野市・田沼町・葛生町教育委員会の助成を得て、各教科領域(9教科+2領域)の「年間指導計画」の作成を推進しており、今年度末には300ページ余の地域プランが完成する。

関プロ栃木大会と

学校週5日制の研修を主眼に

足利地区

今年度は関プロ栃木大会第8分科会「地域に開かれた学校」の発表をより充実させようと、各校の実践例をスライドを利用して発表することや、補助資料の作成に力を入れた。補助資料は市内11校の「家庭・地域との連携による学校教育」のテーマに沿った具体例を7項目に分類し、83ページにまとめ、大会当日参加者全員に配布したが、「これは使える、活用できる」とたいへん好評だった。

私の朝会訓話

感動を伝えたい

小山市立乙女中学校長 安久井 賢治

小学校長三年間を経て中学校長となり、改めて朝会訓話の難しさを痛感しているこの頃である。

朝会訓話にもいろいろあろう。私は、自分の受けた感動を、生徒達の生き方と結びつけて話したいと常に思っている。校長自身の心に残ったものでなければ、聞き手である生徒達の心に感銘を与えることはできない。生徒達の心に生き続けることはできないと思うからである。

群馬県東村の「富弘美術館」を訪れ、星野富弘氏の絵と詩にふれた時の感動、手足の自由を失い、失意のどん底から周囲の愛に支えられ、花と詩に生きる力を見出した作者、そこを流れる作者の生き方を、耐えることの弱い生徒達に、自分だけが悩みを背負っているかのように思っている生徒達に伝えたい、忘れかけていた「心」を取り戻させたい。〜と、氏の著作「鈴の鳴る道」をつかって朝会訓話をおこなった。

“車椅子に乗るようになってから十二年が過ぎた。その間、道のでこぼこが良いと思っただことは一度もない。〜ところが、この

た。また、もう一つの研修内容は9月から実施される学校週5日制の問題である。文部省の研究指定校の資料や県教委の中間・最終のまとめ、あるいは、足利市の検討委員会等の資料を参考にしながら、教育課程編成、学力水準維持、学校施設の開放、教職員の勤務態様、家庭への啓発、保護者不在の家庭、地域との連携等について研修を進めている。なお市の小中学校長会にも検討委員会を設け、土曜日保護者不在家庭の調査、9月第1回実施のアンケート調査を行い次回に生かす予定である。その他の研修では、8月足利市中学校長会のあり方(講師浅野会長)、11月学校経営実情調査、12月同和教育研修会等が予定されている。

間から、そういった道のでこぼこを通る時に一つの楽しみが出てきた。〜車椅子につけた鈴が「チリン」と鳴ったのである。心にしみるような澄んだ音色だった。〜鈴の音を聞きながら私は思った。人は皆、この鈴のようなものを心の中に授かっているのではないだろうか。その鈴は、整えられた平らな道を歩いていたのでは鳴ることがなく、人生のでこぼこ道にさしかかった時、揺れて鳴る鈴である。”

まさに中学時代はでこぼこ道だと、鈴の鳴る道だと締めくくった。どの位生徒達に伝わったかはわからないが、より内容の深い、そして聞き手である生徒達の生き方にふれる朝会訓話を目指して、自分の感動を一つでも多く得られるような日々を送ることが大切であると思っている。



お知らせ

＜平成4年度＞

第31回関東甲信越地区中学校技術・家庭科
研究大会栃木大会のご案内

関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会長
浅野 暉 男(足・第二中)

今日の科学技術の進歩も経済の発展は、社会の各方面に大きな変化をもたらした。

この社会の変化を思考するとき、基礎的・基本的な知識・技能を定着させることはもとより、当面する課題の解決を図るための学習の仕方を習得させることが肝要である。

本県ではこれまで、実践的、体験的学習の重視、問題解決学習の実践等研究を積み重ねてきたところであるが、更に一步前進して、次の諸点に立って学習指導のあり方を探索し、今日的課題の解決に向けて一層努力して行こうと考えている次第である。

1. 満足感や充実感を味わせる学習指導のあり方
2. 学習課題の探索やその解決策の構築を重視した学習のあり方
3. 学習課題やその解決策の探索する過程において、工夫し創造する能力を育て発揮できる学習指導のあり方
4. 生徒の学習能力に応じ、学習意欲を触発、継続できるための題材の多様化や指導の個別化を図るための学習指導のあり方
5. 情報基礎領域の学習内容を達成させるために各領域の学習指導にコンピュータを活用し、情報活用能力を育成していく学習指導のあり方

大会の概略

研究主題 「一人一人に学ぶ楽しさを体得させ、工夫し創造する能力を育てる学習指導」

大会期日 平成4年10月22日(木)～23日(金)

- (1)全体会 10月22日10時～15時30分 県教育会館
内 容 開会式、全体提案、記念講演、閉会式
記念講演 宇都宮大学前学長 馬場信雄先生
- (2)分科会 10月23日 9時40分～15時30分
県下 地区 分科会場(各領域ごと)
- (3)参加費 3,500円

参加者各位の熱心な協議を期待しております。

＜平成5年度＞

第35回関東音楽教育研究大会栃木大会の
ご案内

栃木県小・中学校教育研究会音楽部会長
竹之内 英 明(上都賀・加蘇中)

＜大会主題＞ 「豊かな感性を培い、進んで音楽活動をする子どもを育てよう」

大会期日 平成5年11月12日(金) 9:00～

大会会場 足利地区(第二中・毛野中・北中)
(小学校3校・全体会足利市民会館)

大会内容 公開授業・分科会 とともに4
全体会(研究演奏・記念講演等)

第33回関東甲信越静地区造形教育研究大会
栃木大会並びに平成5年度栃木県造形教育
研究大会のご案内

大会実行委員会副委員長
阿久津 壽 之(宇・姿中)

本大会は、幼・小・中・高の学校を一貫した研究体制と組織のもとに、新学習指導要領に基づいて、次のように行います。関係教職員の参加について特段のご配慮とご支援をお願いします。

○大会テーマ

「豊かな心 伸びる個性 ひらく明日」

○会 期 平成5年10月21日(木)・22日(金)・23日(土)

第27回全特連関東甲信越地区特殊教育
研究協議会栃木大会のご案内

栃木大会実行副委員長
石 澤 留 五(宇・晃陽中)

＜大会主題＞

特殊教育のより一層の充実・発展をめざして
一個に応じた指導の深化を図る一

大会期日 平成5年7月27日(火)～28日(水)

大会会場 栃木県藤原町 「あさやホテル」

大会内容 開会式、分科会、記念講演、閉会式

担当教員の参加につきましては、特段のご配慮をお願い申し上げます。